

学校教育の重点

—京都市の目指す子ども像—
伝統と文化を受け継ぎ、
次代と自らの未来を切り拓く子ども

京都市立松ヶ崎小学校教育目標

豊かな心をもち
生き生きとたくましく
共に学び合い高め合う子

目指す子ども像

よくかんがえる子 がんばりやり通す子 やさしい子 きたえる子

- ・自分の考えをもち、相手に届くように語りきれる子ども
- ・筋道立てて考え、正しく判断して、行動できる子ども
- ・自分の力で、自分から、自分の目指すところまでやりきれる子ども
- ・自分を大切にし、他者を尊重し、力を合わせてがんばる子ども
- ・心身をきたえ、命を大切にする子ども

目指す教職員像

- ・一人一人の子どもを大切にする教職員
- ・子どものために一生懸命取り組む教職員

目指す学校像

- ・子どもが楽しく登校する学校
- ・家庭・地域と連携し、子どもを育む学校

教育目標の具現化に向けて

○ 「確かな学力」

- ・「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」が実感できる授業を展開する。
- ・すべての子どもに、指導すべき基礎的・基本的な知識技能を確実に習得させる。

教材研究を深める

学習課題（めあて・目標）に応じた「まとめ」と「ふりかえり」を行う
学習過程を工夫する

主体的・対話的な学びを重視する

45分の授業を強く意識し大切にする

- ・問題解決的な学習や、探究活動を充実させる。

多様な学習形態を取り入れる

総合的な学習の時間を充実させる 体験活動の重視 地域素材の活用

- ・意図的・計画的な言語活動を行う。

国語科を中心にして各教科等で

教室掲示・校内掲示の工夫

児童の発表の場の設定

- ・個々の子どもの課題を明確にとらえ、きめ細かな支援に基づく学力向上に向けた取組を推進する。

「全国学力・学習状況調査」等の結果分析を踏まえた授業改善

- ・図書メディアセンターを「学習・情報センター」「読書センター」として、教育課程の中に的確に位置づけ、活用する。また、学級文庫を充実させる。

読書ノートの活用

「めざせ百冊！読書マラソン」の取組

京都市図書館と連携する

- ・日常的に英語にふれる機会を設定する。

イングリッシュ・シャワー・・・校内放送で 掲示板で 授業で

○ 「豊かな心」

- ・道徳教育推進教師を中心に、「しなやか道徳教育」の実践を推進する。
- ・道徳の時間には、多様な実践活動や、体験活動を生かし、道徳的価値の理解を深める教育の充実を図る。
- ・規範意識を育成する。

○ 「健やかな体」

- ・生涯を通じて自分の健康を適切に管理して、改善していく資質や能力を育成する。
- ・食生活の改善に向けた意識・関心を培う取組を進め、食育の充実を行う。
- ・日常生活の様々な危険から、自分を守るための安全教育の取組を推進する。

〈学校運営で大切にしていくこと〉

○子どもの命を守りきる

- ・子どもの命を守りきる教育活動・学校運営に徹する。
- ・「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を迅速かつ組織的に行う。

○教育者としての職責を自覚し、その専門性を高める 質の高い集団を目指す

- ・教員は自ら学ぶ意欲を持ち続け、常に指導力の向上に努める。
- 公開授業を積極的に行う 研修会に参加する
- ・日々「当たり前のことと当たり前に」実践する。
 - 教育のプロとして指導しきる
 - 子どもに媚びず、指導すべきは指導する
 - 「主張ある、説明のできる取組」を展開する

○保護者・地域と連携・協働する

- ・学校としての説明責任を徹底し、開かれた学校づくりを推進する。
 - 学校だより 学年・学級だより ホームページ
- ・学校、家庭、地域が協力し、子どもの成長を育む。
 - 「地域の子どもは地域で育てる」
- ・学校評価システムにより、学校の良さや課題を見つけ、改善に取り組む。

○人権教育の基盤を築く

- ・人権教育の担い手となる子どもを育成する。
- ・障害のある子どもの困りに対する具体的な取組を推進する。

○生徒指導の充実

- ・3つの「あ」の励行
 - 「あいさつ」「あんぜん」「ありがとう」
- ・規範意識を育成する。
 - 「社会で許されない行為は、学校において許されない」
 - 素直に「ごめんなさい」が言える子どもに

○教育環境の保障

- ・子どもにとって**最良の物的環境**をつくる。
 - 整備されたきれいな学校 きれいな教室
- ・子どもにとって**最良の人的環境**をつくる。
 - 子どもの心に届く指導と声かけ
 - なりたい大人像を示す
- ・言語環境を豊かに
 - 教職員の言語環境・・・正しい日本語で話す 文末までしっかりと
 - 文字言語環境・・・掲示板の活用
 - 音声言語環境・・・音読 群読等

○お互いの心がけ

- ・子どもに力をつけてこそ、子どもが変わってこそ指導である。
- ・「しなければならない仕事」に加えて「したい仕事」をしよう。
- ・自分の「教育センス」に気付き、磨き続けよう。
- ・お互いに感謝の気持ちを忘れず、一生懸命仕事をしよう。
- ・限られた時間を有効に使おう。
- ・自己の健康管理をおこたらないようにしよう。

○校長室は

「語らいの場」 「学びの場」

- ・子どもが喜びや心配事等を自然に語れる部屋に
- ・教職員が情報を交流し、教育について研修したり、議論したりする部屋に
- ・保護者や地域の方が足を運びたくなる「語らい」のある部屋に